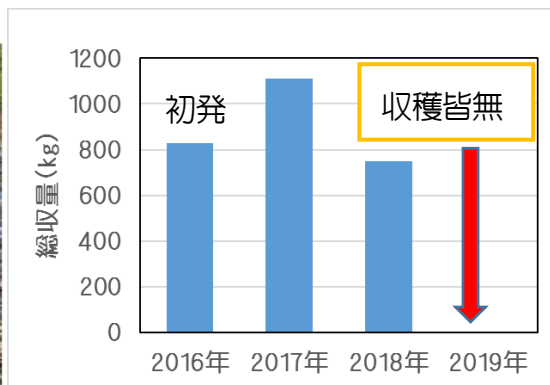


もとぐされ
サツマイモ基腐病 収穫前に確認を！

○サツマイモ基腐病の恐ろしさ・・・収穫皆無になる場合もあります！



10月下旬 収穫皆無の圃場



(上記圃場の面積は9a) ※鹿児島県資料より引用

上の写真は基腐病が激発したことで収穫皆無になった他県の圃場です。
また、右上のグラフは「べにはるか」連作圃場の事例です。クロルピクリンによる畝内消毒を実施していますが、排水性が悪く湛水しやすい圃場条件であり、2016年の初発から3年で収穫皆無になりました。

*九州では基腐病の影響で、サツマイモ生産をあきらめた農家もあります。

○基腐病は・・・

- ・病原菌（カビ）によって発病した部分（柄子殻）から放出された大量の胞子が、水で広がっていくことで感染が拡大します。



株元の黒変部分

他県の情報では

- ・一度圃場で発生すると、ツルやイモの残渣とともに病原菌（カビ）が残り、土壤消毒だけでは防ぐことができていません。
- ・感染したイモは収穫後も腐敗が進み、貯蔵すると他のイモにも感染が拡大します。
- ・感染した種イモから採苗した苗によって、他の圃場へも感染が拡大します。

産地にとって基腐病対策は最重点課題です！全員が徹底した対策をとりましょう。

収穫前や収穫中も次ページを参考に観察をお願いします。

1 収穫作業に入る前に圃場の観察を！

ツル刈り作業に入る前に圃場の確認をしましょう。
繁茂しているため症状はわかりにくいですが、少しでも葉の変色やしおれなどの異常があったら、必ず株元にも変色がないかを観察してください。

また、圃場に入る前と、一日の作業を終えた後には、農器具・機械等の洗浄を行ってください。



※上記写真は鹿児島県資料より引用

2 収穫時の感染株の見つけ方

①地際の茎の変色、感触

- ・ やや明るめの黒色～褐色に変色します。
- ・ 変色した部分は比較的硬く、ジュクジュクとした軟腐症状ではありません。
- ・ 変色した部分に小さなイボ（柄子殻）^{へいしかく}が無数に発生し、粗い紙ヤスリのようにガサガサします。

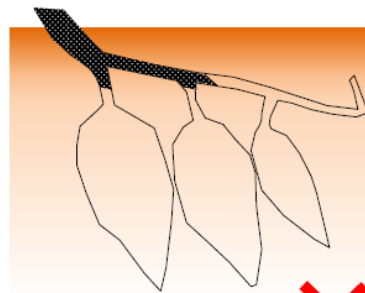


感染株の茎の表面
小さなイボ状の柄子殻

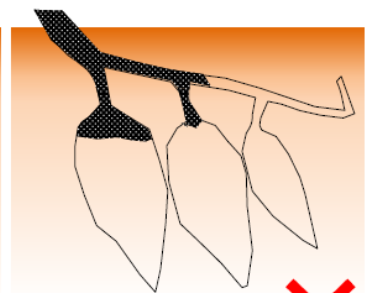
② 諸梗（茎とイモをつなぐ部分）の変色



（撮影日：不明）



諸梗まで病徴あり



塊根まで病徴あり

③イモの変色

- ・ 病害はなり首側から褐色～暗褐色に腐敗します。
- ・ 種、貯蔵用のイモは、確実に判別するため、泥を落としてから確認しましょう。



品種「シロユタカ」

※上記のいずれかの症状があったものは、絶対に圃場に放置しないでください！！

このような症状があった場合は、すぐに農業事務所に連絡をお願いします。

診断に向けた茎やイモのサンプリング、感染状況の調査を行います。